

平成29年7月九州北部豪雨

平成29年7月5日から6日にかけて、福岡県と大分県を中心とする九州北部で集中豪雨が発生しました。九州で初めて大雨特別警報が発表されるほどの記録的な雨量により、大量の土砂や流木が流出し、道路や家屋などに大きな被害が出ました。

※大雨特別警報とは、数十年に一度の大災害が起ると予想される場合に、最大級の警戒を呼びかけるものです。(平成25年8月30日から運用開始)

被害状況

		福岡県	大分県
人的被害	死者	37人	3人
	重軽傷者	16人	4人
	行方不明者	2人	0人
住家被害	全壊	274件	48件
	半壊	830件	269件
	一部破損	39件	5件
	床上浸水	22件	150件
	床下浸水	587件	843件
非住家被害		750件	600件
道路被害		640件	663件
河川被害		474件	1382件
土砂災害	がけ崩れ	219件	45件
	地すべり	2件	0件

※福岡県災害対策本部「平成29年7月九州北部豪雨に関する情報（臨時報第16報）（第170・171報）」、大分県災害対策連絡室「『平成29年7月九州北部豪雨』に関する災害情報について（最終版）」

大野城市の支援

職員派遣

平成29年7月10日から被災地に職員を派遣しました。(人数は延べ)

- ◇避難所運営支援 44人
- ◇救援物資対応 2人
- ◇災害ごみ受け付け 20人
- ◇保健師 6人

義援金（平成30年4月26日現在）
102万7878円

※8月に筑紫地区の4市で合計1千万円の見舞金を朝倉市へ送金

物資

平成29年7月7日に日田市へ救援物資（紙オムツなど）、7月14日に朝倉市へ自転車（被災者用）をそれぞれ配送しました。

今回は、6月15日号で、引き続き「平成29年九州北部豪雨」を振り返ります。



大きな被害を受けた朝倉市立比良松中学校